

梅鶯仏壮定期総会

(三月二十一日・祝)

午後六時より

役員会

同日

平成22年度を振り返って

北村新一郎

平成22年度梅鶯仏壮の主な活動の一つに、9月25日に開催されました親鸞聖人750回大遠忌法要坂田組お待ち受け大会への参加がありました。すでに多くの皆様方より大成功のご案内がなされている通りでありました。私もお手伝い方として舞台裏より参加させて頂きました。スタッフの皆様全員が緊張しつつも感動されておられ、感謝の気持ちが全身にみなぎ



つておられるのが、ヒシヒシと汲み取れました。お手伝いできた機会を頂けたことを本当に有り難く思っております。

私が愛読冊子としております地域情報紙『みくな』に「親鸞さんのおかげさん」と題して、宗祖親鸞聖人750回御遠忌記念の特集が発刊されています。ご紹介致します。

内容には、湖北の浄土真宗の歴史や行事、わかり易い宗教用語の解説、また花月真氏の対談記事も載っております。

各地の行事等の紹介では、各お寺さんとのつながりと共に、生活に根付いた形で先祖の方達が、その各時代に守り受け継いでくれた信仰への強い思いが身近に強く受け取れる内容となっております。

最後になりましたが、平成23年度は本山での大遠忌法要行事が行われます。皆様の参加協力を宜しくお願い致します。合掌

『みくな』vol.109

特集 親鸞さんのおかげさん

2011年1月発行(季刊)

「発行」長浜みくな協会

ミャンマー(旧ビルマ)の仏跡を訪ねて⑥

副会長 森 勝昭

3月1日(四日目)

5時15分起床。朝食6時15分、出発。

マンダレーから飛行機で約2時間、旧首都ヤンゴン(ラングーン)へ、人口300万人ビルマ最大の都市で玄関口であり経済の中心地となつていきます。

市内観光バスは、これまた滋賀県の滋賀観光バス会社名でした。

みんな大笑い・・・

パコダ(仏塔)見学・参拝、こ

も各寺院裸足で参拝。

足の裏が真っ黒、あつい!!

バスを降りると、物売りの子供

たちがしつこく付きまとう。

お客の顔をよく観察している

のが分かる。

一生懸命に商売している姿を見

るとついつい根負けしてしまう。

1ドル(100円程度)の絵葉

書など3冊買ってしまった!!

もいい土産になった。

昼食は、2階で高床

式の風が吹き抜ける気

持ちの食のいいレストラン

の会食。ビールがうまい・・・



題材法話

五十六億七千万
弥勒菩薩はとしをへん
まことの信心うるひとは
このたびさとりをひらくべし

これは親鸞聖人さまの
和讃の一つです。

から500年ほどの間は、
正法の時代といってお釈迦
様の教えが正しく残り、ま
たその教えによつて正しく
修行して悟りをひらく人も
出る時代だとされます。ほ
どは、像法の時代といつて
お釈迦様の教えは残り、正
しく修行をする人はいるけ
れども、悟りを得ることの
できず、人はなくなる時代
だとされます。末法の時
代として、お釈迦様の教え
だけが残り、時代が続くと
されます。



にもお聞きになったことが
あると思いますが、実はこ
の先があるのです。

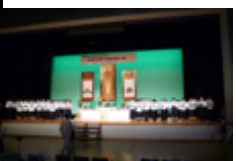
○弥勒菩薩さま
つまり末法の時代がいつ
までも続くというわけでは
なく、末法の時代は約1万
年間続くけれども、その後
はお釈迦様の教え自体も無
くなつてしまふといわれて
いるのです。

それではその後どうなる
のかといふと、お釈迦
様の教えは五十六億七千万
年後に弥勒菩薩という仏様
が救うことになる」と仰つて
いるのです。

初この冒頭のご和讃の最
初の2句「五十六億七千万
弥勒菩薩はとしをへん」と
いうことなのです。

○人類滅亡の時に
と、後で五十六億七千万
年後になるといふ話で、な
にかとてつてもなく先の話
であり、全く現実感がないよ

うに思ふのです。
が、実は最近の科
学でおもしろいこ
とが分かつてきた
そうです。



それは科学者の計算上で
は「太陽の水素は今から約
六十億年弱で燃え尽きる」
と算出されたそうなのであ
ります。

「太陽といふとも永遠の
存在ではない」と、なんと
なく思つてはいました。が、
科学者がその寿命は60億
年弱であるといふ現実には
き出したわけでありませう。

当然地球が燃え尽きる時
になくなくなるはずで、そ
れが仏典にいう「お釈迦
様が亡くなつてから五十六
億七千万年後に弥勒菩薩が
この世に現れる」といふこ
と、妙に一致するわけです。

の命がなくなる時に、弥勒
菩薩様が現れてその命を全
てすくい取つて下さること
を意味して、いふような氣
がします。

○弥陀ご本願のありがたさ
お釈迦様が三

千年前にお説き
になつた縁起の
思想や三法印の
教え、さらには
そこから展開さ



れる空の思想といつた仏教
の根本思想が、現代科学で
も多くの証明されはじめて
きていると聞きますが、な
かこの弥勒思想にもお釈
迦様の大きな宗教的洞察
力が感じられるわけです。

ご和讃で仰つておられる
事なことは、むしろ後段の
2句で、「まことの信心う
るひとはこのたびさとりを
ひらくべし」といふところ
です。

つまり、「私達が阿弥陀
様の御本願による救済とい
う、とても得がたい今の機
会を逃したならば、つぎは
五十六億七千万年後まで待
たなければならぬのだ」と
いふことです。

だからどうか「まことの
信心うるひとはこのたび
さとりをひらくべし」とお
すすめ下さるのです。

今、「受けがたし人身を
受け、聞きがたし仏法を聞
いてゐる」ことを

悦ばせて頂きました
と思ひます。

平成二十三年修正会

住職法話より

